

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

現状分析による課題を踏まえ、プロジェクトZの諸施策を着実に進めるとともに、IR活動・ESG取り組み強化により、2027年までにPBR1倍以上の実現を目指します。



PBR、ROE、PERの経年変化（現状分析）

当社のPBRは1倍を下回る水準が継続しており、2023年12月末時点で0.34倍に留まっています。PBRの構成要素であるROEとPERに分解し、それぞれの項目について「同業他社との経年比較」および「当社と接点のある投資家からの意見収集」等を通じ、その要因を整理しました。

① ROE
ROEの経年変化から、中期経営計画目標数値である8%に届かず、その要因は、当期純利益率と総資産回転率の低さにあると整理しました。当期純利益率は製品ごとの利益率や販管費率、総資産回転率は在庫量や設備稼働率等が原因と考えています。なお、日頃接点のある機関投資家が把握する当社株主資本コストの水準は概ね8%程度と認識しています。

② PER
PERは、2020年以降10倍に満たず、その要因は、成長性や強み・収益性等の情報開示不足や、計画と実績の乖離等が原因と捉えています。



主な分析結果と改善の方向性

現状分析の観点	主な分析結果	改善の方向性	
PBR	ROE	<ul style="list-style-type: none"> 収益力 <ul style="list-style-type: none"> 当期利益率/営業利益率が他社比で低位かつ、投資家の期待値に届いていない 投資家が期待する株主資本コストを上回る資本収益性をあげられていない 資産効率性 <ul style="list-style-type: none"> 他社比において営業CFの投資への配分シェアは高い一方で、売上・利益の進捗が限定的なため固定資産回転率が低い 棚卸資産(在庫)の回転期間が他社比で長期化している 	<ul style="list-style-type: none"> 収益性改善 資産効率化
	PER	<ul style="list-style-type: none"> 成長期待 <ul style="list-style-type: none"> 売上/利益ともに成長率は他社比で低位な水準 海外売上高比率は他社に劣後 配当性等の株主還元が他社比で低位な水準 債務償還年数が長く、財務健全性の観点で留意が必要 情報開示/対話 <ul style="list-style-type: none"> 国内と海外の収益性の違いや強みの開示が不十分 経営目標を達成するための行動目標の開示不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 成長に向けたキャッシュアロケーション IR活動・ESG取り組み強化
	資本コスト	<ul style="list-style-type: none"> 計画と実績の差異が大きく、計画の信憑性が低下している ガバナンス(≒監督機能)の強化が必要 	

PBR改善に向けて

- 1 | 収益性改善**

収益管理の高度化を加速させ、プロジェクトZによる抜本的構造改革と成長戦略を遂行し収益性改善を果たします。 P25~28
- 2 | 資産効率化**

ハードルレートによる投資判断と在庫圧縮により資産効率化を図ります。 P31~32
- 3 | 成長に向けたキャッシュアロケーション**

収益性改善、資産効率化を進めて、営業キャッシュ・フローを創出し、構造改革・成長投資、株主還元、そして、有利子負債の削減へつなげます。
- 4 | IR活動・ESG取り組み強化**

成長戦略の理解促進や資本コスト低減を図る活動の充実・強化を図ります。 P77~78